

YKK株式会社／YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1

URL <http://www.ykk.co.jp>

〈お問い合わせ先〉

YKK株式会社 環境グループ

〒938-8601 富山県黒部市吉田200

TEL: 0765(54)8161 FAX: 0765(54)8149

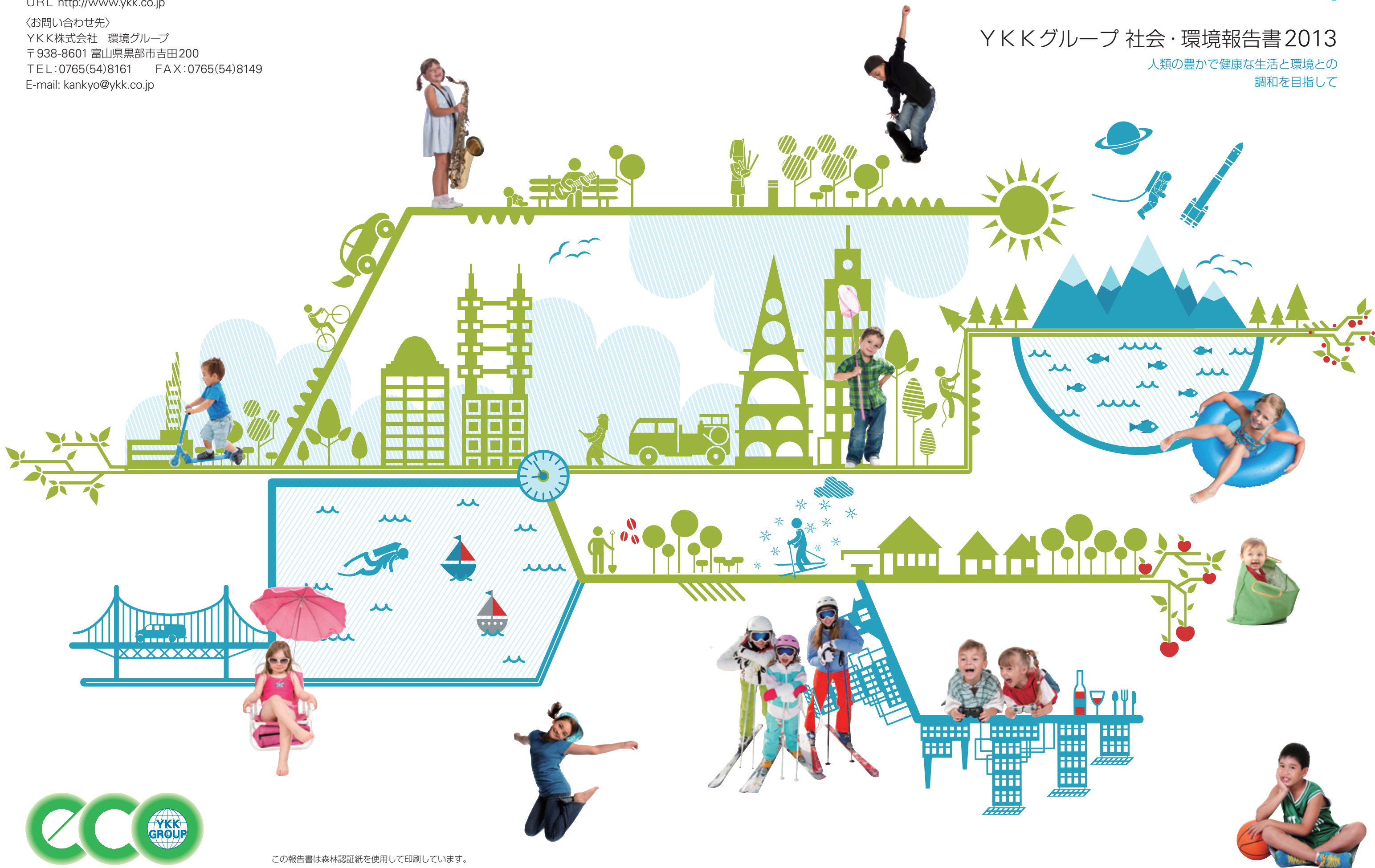
E-mail: [kankyo@ykk.co.jp](mailto:kankyo@ykk.co.jp)

YKK

Social & Environmental Report 2013

# YKKグループ 社会・環境報告書2013

人類の豊かで健康な生活と環境との  
調和を目指して



この報告書は森林認証紙を使用して印刷しています。



# ともに価値を創出する、 YKKグループのものづくり

YKKグループは、地域社会、お客様、従業員とともに  
価値を創出し、共有できるものづくりを通じて持続可能な  
社会を目指しています。



## 目次

- 2 トップメッセージ
- 4 特集：社会とともに歩む、YKKグループのものづくり
  - ・ファスニング事業でさまざまなニーズに応える
  - ・地球にも人にも優しい、YKK APの窓と建材
  - ・工機の技術開発力でものづくりに貢献する
  - ・人と地域と共に成長する
- 10 ステークホルダー・ダイアログ  
社会とともに歩む、YKKグループのものづくりに  
期待すること
- 14 地域社会とともに
- 16 お客様とともに
- 18 従業員とともに
- 22 地球環境とともに
- 28 企業情報

## 表紙のテーマ

YKKグループ 社会・環境報告書の表紙テーマは「子どもたちが自然の中で笑顔で遊べる未来」です。今回の報告書は、「社会とともに歩む、YKKグループのものづくり」というメインテーマを反映し、「自然との共生」を目指すYKKグループのエコプロダクツが活用されている「未来のエコシティ」のイメージを背景にしました。

## 編集方針

幅広いたくさんの方々がこの報告書を通じてYKKグループを知っていただきたいという思いから、基本的な考え方を記載した冊子版(本誌)と、数値情報などを開示するWeb版に分離し発行しています。

Web版もご覧ください。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2013/contents.html>

また、この冊子は紙のリサイクルに適した材料のみを用いて作成しています。不要となった際は、製紙原料となりますので、古紙回収・リサイクルが可能です。

## 対象範囲

YKKグループ(YKK株式会社、YKK AP株式会社、海外主要生産拠点など)

## 対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)

2013年6月発行 次回発行は2014年6月を予定しています。

配布場所：YKK黒部事業所内「YKK 50ビル」受付、YKK APショールームにて配布しています。また、インターネットでは、エコホットライン(<http://www.ecohotline.com/>)にて発送のお手続きを承っています。

印刷：YKK六甲株式会社(YKKグループ 印刷事業特例子会社)



# ものづくりと持続可能な社会づくりへの挑戦

## 技術の進化と革新に挑み、明日を開く ～「小エネ」を追求し社会の発展に貢献します

ものづくりへの挑戦を絶え間なく続けること――。

YKKグループは、企業精神である『善の巡環』と、経営理念である『更なるCORPORATE VALUEを求めて』のもと、チャレンジし続けてきました。現在の事業の礎も、創業以来、何度も何度も挑戦を重ねることにより形づくられました。中核事業であるファスニング事業とAP事業を世界71カ国／地域で展開する今も、こうした姿勢は変わることはありません。

今や事業環境は、地球規模で激しく変化する時代を迎えています。しかし、だからこそ変化をチャンスととらえてより果敢に挑戦すべきだと考えています。

現在、ファスニング事業ではコスト競争に加え更なるスピード対応が、AP事業では住空間から超高層ビルにいたる建築分野で新たな価値が求められています。私たちは技術の進化と革新を進めることで多様なニーズに応え、ものづくりを通じて新しい価値の創造に挑み続けます。

また、すべての事業において、環境負荷を徹底的に低減させ、あらゆる生物や自然にやさしい企業活動を推進していきます。持続可能な社会の発展に寄与することは私たちの理念でもあります。エネルギー使用を少なくするものづくりを推進するとともに、小さなエネルギーで快適に暮らす「小エネ（ローエネ）」を追求し、これを高いレベルで実現することは未来への責務だと考えています。環境との調和を図り、技術力を活かした新しい価値を創造することによって、社会の持続的発展に貢献してまいります。



2013年6月

YKK株式会社 代表取締役会長 CEO  
YKK AP株式会社 代表取締役会長 CEO

吉田 忠裕

## 「持続可能な社会づくり」に貢献 「商品からものづくり」まで

YKK株式会社の実践するグローバル事業経営は、YKK精神『善の巡環』、経営理念『更なるCORPORATE VALUEを求めて』のもと、一貫して「公正」であることを、経営における行動指針としています。

海外展開においては、その国で「土地っ子になれ」を合言葉に、その国に根付き、現地のマーケットや顧客に応じた事業活動に知恵を絞り、現地人材を雇用・育成・登用して、経営を委ねるなど、「信用・信頼」を基盤にした、社会との長期にわたる強い関係づくりの中で、ビジネスの成長を通して地域社会に貢献してまいりました。

環境活動においても、世界71カ国／地域を網羅する情報連絡体制、責任体制を整備するとともに、国ごとに異なる環境関連法への対応を確実にするために、地域単位でのコンプライアンス体制を構築しています。

エネルギー改革の推進、「YKK Group Tree Planting Day」などによる多様な生態系の保全、資源の有効利用等、環境負荷の低減に努めています。

また、生活に密着した商品を製造・販売していることから、お客様のみならず、最終消費者のニーズも追求することで、YKKの商品が衣類や産業資材などの付加価値向上に貢献できるよう、お客様にとって価値ある「品質」を実現するためのものづくりを進めてまいりました。

YKK株式会社はこれから更に商品力と提案力、それを支える技術力をもって、人と社会へ価値を提供し、事業活



動を通して地域社会に貢献し、持続可能な社会づくりを目指してまいります。

2013年6月  
YKK株式会社  
代表取締役社長  
YKK環境政策委員会  
委員長

猿丸 雅之

YKK AP株式会社は、快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、さまざまな建築用プロダクツを通して、これからの時代にふさわしい事業価値を創造し、暮らしと都市空間に、先進の快適性をお届けする企業を目指しています。

昨今では電力の需給問題に際して、住環境における省エネ性能が特に重要視されています。YKK AP株式会社は、「メーカーに徹する」という方針のもと、生活者視点でのものづくりにこだわり、家庭やオフィスのエネルギー削減に向けて遮熱、断熱、通風など省エネ機能を高めた商品を積極的に開発し、地球環境にも優しい快適な住環境を創り出したいと考えています。小さなエネルギーで快適に暮らす「小エネ（ローエネ）で暮らそう」をコンセプトとし、高い断熱性能を持つ窓を中心に、その周辺の商品も含めた窓辺空間を考え、使い方と合わせて提案していきます。

また生産工程においては、生産ラインの更なる効率化と工場の耐震・省エネ化を図るとともに、商品輸送時の効率化、ゼロエミッション活動を展開することにより、低炭素・循環型社会の実現に寄与し、自然環境と調和する“ものづくり”を目指します。

商品と品質、そしてものづくりにこだわり続けるメーカーとして、住宅環境の更なる向上につながる商品をお届けすることで、新しい価値を創造し、より豊かな社会づく



りに貢献していきたいと考えています。

2013年6月  
YKK AP株式会社  
代表取締役社長  
YKK AP環境政策委員会  
委員長

堀 秀充



## ファスニング事業でさまざまなニーズに応える



# 200万

### 年間生産量：200万km以上(地球50周分)

宇宙服には、YKKの水密・気密ファスナー(水や空気を通さないファスナー)が使われています。  
(この写真はイメージです)

## 多様なニーズに応える商品を提供し、顧客満足を高める

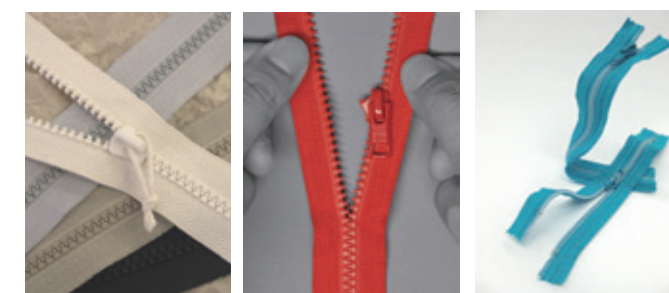
ファスナーが衣料品の製造コストに占める割合はごくわずかですが、それが壊れると衣料品は着られなくなるため、商品の信頼性は何よりも重要となります。

さらに、薄さ、軽さ、柔軟性などが求められる一方で、ユニバーサルデザインや環境に配慮した商品への需要が高まるなど、ファスナーに対するニーズも多様化しています。

YKKは、徹底した品質管理と一貫生産システム、そしてグローバルな供給体制のもと、信頼でき、かつ多様なニーズに応える商品世界各地のお客様に提供しています。

たとえば、ファスナーを左右に引っ張るだけで開けられる「簡易分離ファスナー」、材料に紙を使用した「紙ファスナー」、いろいろな形状を保持できる「形状保持ファスナー」といった従来のファスナーにはない機能を持つ商品や、エレメントひとつひとつに念入る磨きをかけた高級ファスナー「エクセラ」や金属ファスナーの重厚かつ高級な外観と樹脂の軽さを併せ持った金属調ファスナー「METALUXE」などファッション性の高い商品をこれまで開発し、衣類だけでなく小物やインテリアなど幅広い用途に採用されています。

### 次々と開発される新しいファスナー商品



「紙ファスナー」 「簡易分離ファスナー」 「形状保持ファスナー」

### 高いデザイン性と機能性を実現した商品



「エクセラ」 「METALUXE」

## こんなところにも・・・「ファスニング」技術で社会を支える

ファスニング(fastening)の意味は「つなぐ」、「留める」、「閉める」、「締める」、「締結する」、「固定する」など多岐にわたります。

YKKのファスナーには、衣類だけでなく、特殊な用途や環境で使われる商品もあります。これらは、宇宙服や化学防護服、ダイビングスーツなどのほか、産業資材用途に幅広く採用されています。

そのひとつである、ファスナーで開閉できる輸送コンテナ(ソフトタンク)は、液体の輸送効率を高めるためにお客様と一緒に開発した商品です。樹脂製の特殊シートでできているため、従来のタンクローリーが片道輸送だったのに対し、液体を納入後は折り畳んで別の荷物を積むことができます。運輸部門のCO<sub>2</sub>削減が課題となる中、輸送の効率化・省エネ化を実現するものとして期待されています。

また、一般の方にあまり知られていない事例として、明石海峡大橋のゴム製の排水溝に水密・気密ファスナー「プロシール」が使用されていたり、船舶事故等による流出油の拡散を防ぐオイルフェンスのつなぎ部分に「ビスロン」ファスナーが採用されています。

さりげなく環境を守る。YKKの技術が意外なところで役立っています。

\*「エクセラ」、「METALUXE」、「プロシール」、「ビスロン」はYKK株式会社の登録商標です。



### 輸送のかたちを変えるソフトタンク

樹脂性のタンクに水密・気密ファスナーを取り付け、折り畳み可能に。荷物を下ろして空になった荷台に復路では別の荷物を積むことができます。ファスナーを全開すれば簡単に洗浄もできます。  
(写真協力：アサノ通運)



### 明石海峡大橋

排水溝には水だけでなく道路上のごみや油分もたまりませんが、排水溝の下部分に水密・気密ファスナーを取り付けることで、定期的な清掃作業を可能にし、海洋汚染を防いでいます。  
(写真協力：本州四国連絡高速道路)



### オイルフェンス

油が流出するような海洋事故の際に、その状況に合わせオイルフェンスを必要な長さにファスナーで接続し、流出油の拡散を防ぎます。  
(写真協力：オガワテクノ)



## 地球にも人にも優しい、YKK APの窓と建材

# 1,000

### ドームに使われるガラスカーテンウォール：1,000種類

シンガポール最大の植物園「Gardens By The Bay Flower Dome & Cloud Forest」。  
3次元曲面のガラスドームは、1,000種類以上のガラスサイズから構成されています。

(写真協力：Gardens By The Bay)

## シンガポール発、グローバルに展開するYKK APのファサード事業

超高層・高難度建築物を手がけるYKK AP ファサード社（シンガポール）は、2012年6月、シンガポール最大の植物園 Gardens By The Bay Flower Dome & Cloud Forestの外装カーテンウォール工事を完工しました。

同園は、2つの無柱空間のガラスドームからなる構造が特徴です。ガラスドームの3次元曲面カーテンウォールには、1,000パターンを越す形状の約6,000枚に及ぶガラスが使われています。YKK AP ファサード社は、ドームの3次元形状を解析しながらガラスとアルミフレームを設計することにより、平板ガラスのみで特徴的な曲線を描く大空間を創り出しました。

さらに2013年4月には、ベトナム市場における事業を展開するYKK AP ファサード ベトナム社を設立。これまで数多くの高層建築物の外装工事で培ってきたノウハウと技術を結集

し、メッセージ性の高い超高層・高難度建築物のカーテンウォールに特化し、世界から指名されるグローバルブランドを目指しています。



YKK AP ファサード社が外装を手がけたベトナムのタンソンニャット国際空港

## 環境に優しい商品を、環境に優しい工場生産

YKK AP初の窓の生産拠点として2011年7月に操業を開始した埼玉窓工場では、2012年10月にLow-Eガラスを生産する「機能ガラス棟」ができたことにより、ガラスから窓までの一貫生産が可能となりました。

埼玉窓工場は、「環境に配慮し、地域社会に根ざした工場」をコンセプトに建物の断熱化、自然の風と光の利用、敷地緑化など環境負荷低減と自然環境の有効利用に取り組みながら、省エネに配慮した窓の需要増に応えています。



断熱性能に優れた窓「APW330」を約300セット使った埼玉窓工場事務所棟(写真協力：竹中工務店)

## さらに快適な住まいを実現する「APW330真空トリプルガラス」

YKK APが2013年3月に発表した「APW330真空トリプルガラス」は、断熱性に優れた樹脂フレームと高性能な真空トリプルガラスの組み合わせによって、国内最高クラスの断熱性能と高い日射取得率を同時に実現するだけでなく、デザイン性に

も優れた商品となっています。この窓を住宅に取り付けることにより、年間の冷暖房費とCO<sub>2</sub>排出量を約25%削減(社内比較)することができます。



## 工機の技術開発力でものづくりに貢献する

# 2,400

### 年間2,400台以上の機械を生産

YKKグループの技術の中核である工機技術本部では、国内外のYKKグループ各工場に専用の機械を供給しています。

YKKグループは、材料から製造設備、製品に至るまでの一貫生産体制によりグローバルに成長してきました。工機技術本部では、材料開発、設備開発、機械部品製造により、ファスニング事業・AP事業向けの専用機械を国内外のYKKグループ各工場に供給しています。専用機械を供給するために必要とされる強化すべき要素技術については、自社内開発による深耕を図る一方で、企業・大学との連携により技術貢献の推進に努めます。



YKKものづくりの原点(CM6型機)

### YKKオリジナルの加工機械の開発

YKKグループのものづくり品質・一貫生産体制を支えるのが、独自に開発した加工機械です。写真のファスナー製造機「CM6型機」は、1964年に開発され、当時の大量生産機械としては世界最高水準の品質を実現した、YKKものづくりの原点となったものです。

その精神を引き継ぎ、工機技術本部では、事業の生産現場に適応した設備開発を通じて、ファスニング事業、AP事業の高い製品品質とコスト競争力を支えています。さらに、2013年度からは電力使用量20%削減を目標に新規設備の開発に取り組んでいます。

### 技能の向上と伝承

工機技術本部では、技能道場を中心にものづくりを支える人材育成に取り組んでいます。2012年からは、技能五輪全国大会<sup>(※)</sup>での上位入賞を視野に、部品加工・機械組み立て作業の原理原則と作業ノウハウをさらに高いレベルで習得することを目指す「技能開発コース」が新たに導入されています。

※各都道府県代表の23歳以下の技能者が腕を競う大会。隔年で開催される技能五輪国際大会の予選も兼ねている。



## 人と地域と共に成長する

# 71

### 日本を含めて71カ国／地域で事業を展開

YKKグループで働く従業員の数は、全世界で3万9,000人に上ります。(2012年12月末現在) 写真はエジプト社提供によるポーチにファスナーを縫い付けている様子です。

エジプトは経済成長率が高い新興国のひとつですが、所得の差が大きく、国民の約4割が貧困層に当たるとの統計もあります。同国のこうした収入層の自立を支援する目的で、JICA(国際協力機構)は青年海外協力隊を派遣して、主に女性を対象に手工芸品製作の技術指導や販路開拓を行っています。YKKエジプト社は2011年より同事業向けにポーチ用のコイルファスナーを提供しています。

### YKKグループは、2008年より世界環境デー(6月5日)に合わせて「YKK Group Tree Planting Day」を実施。「自然界との共生」を目指し、世界の各拠点にて継続的な植樹活動を行っています。



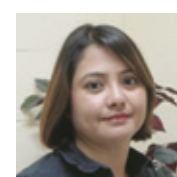
黒部事業所では、YKKグループが創業100年を迎える頃に創業社長が思い描いていた「森の中の工場」を実現できるように2008年から森づくりに取り組んでいます。「ふるさとの森」の再生をめざして、黒部川扇状地に育成していた樹種20種類の苗木約2万本を、従業員やその家族だけでなく、地域の方々にもご協力いただき植樹しました。

YKK黒部事業所 勇 佳珠代



人口増加は、自然と経済システムに多大な影響を与えます。「環境」というテーマが人類に重くのしかかる中、当社は従業員や地域社会の環境意識の向上を図りながら、環境を守ることには環境だけではなく、生活、経済、健康、仕事など、あらゆるものを守ることに通じることを理解してもらえるよう取り組んでいます。

YKKブラジル社(工機) Lucio Nagami



エルサルバドルの森林率は、温暖化による火災発生や伐採などにより、わずか3.85%となっており、2025年にはさらに0.75%まで低下する見通しです。樹木は地下水保全やCO<sub>2</sub>吸収に不可欠な存在です。私たちは2012年度、20名の従業員が協力して300本の植樹を行いました。これからもこの活動を未来のために継続していきます。

YKKエルサルバドル社 Mildred Mendoza



私たちは2008年以降、計412本の木を工場敷地内に植樹しました。事業によるCO<sub>2</sub>排出量のわずかも吸収したいという思いがあります。これらの木々は次世代の従業員たちに引き継がれることでしょうか。数年後には木が成長し、敷地内が埋め尽くされるので、別の場所に「YKKの森」をつくることも考えています。

YKKトルコ社 Seda Gursoy



低炭素社会の構築は中国にとって最重要の環境課題となっています。当社は温室効果ガス排出量の削減に取り組みながら、温室効果ガスの吸収に貢献する植樹活動を、2005年より地元の小中学校と共同で行っています。これからも植樹活動を続けながら、環境意識の向上を図り、低炭素社会の構築に貢献していきます。

YKK AP蘇州社 張 建豊

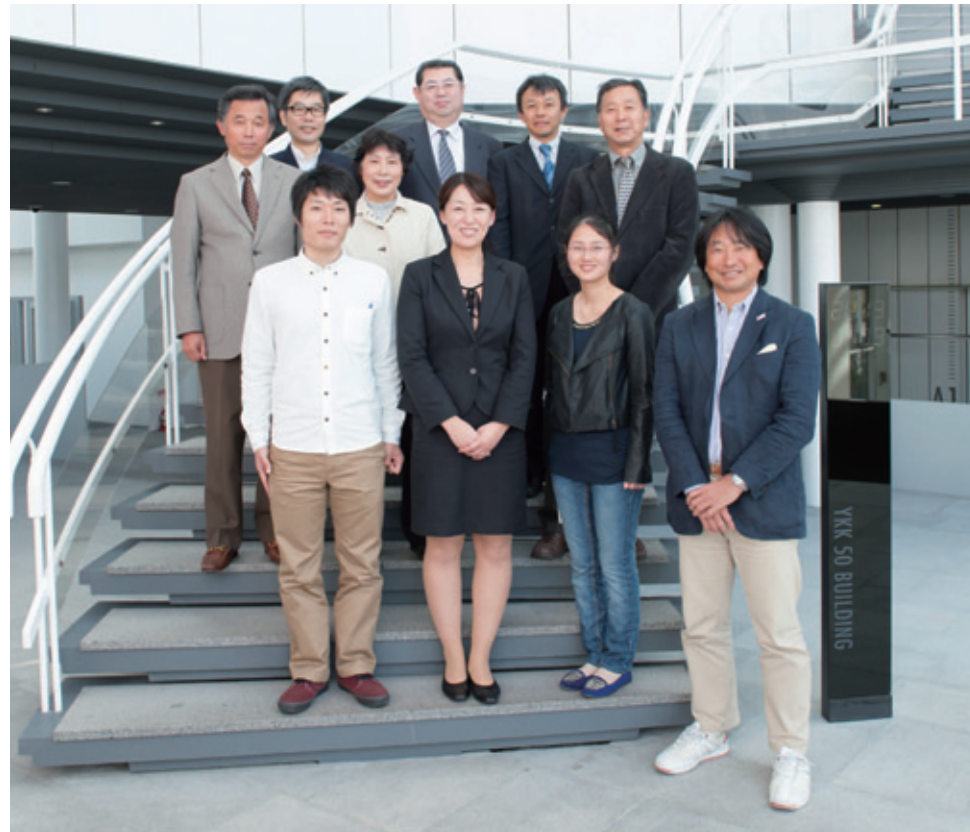


私たちは2008年より毎年「YKK Group Tree Planting Day」に参加しています。2012年はダッカ郊外の学校を中心に計1,000本の木を植樹しました。植樹には環境保護はもちろん、社会貢献の側面もあります。バングラデシュの森林率が10%に満たない中、私たちの活動が同国の緑化活動に少しでも貢献できたらと思います。

YKKバングラデシュ社 Rasel Mahmud



## 社会とともに歩む、YKKグループのものづくりに期待すること



後列左から：  
 APお取引先：平野 明  
 (平野工務店株式会社 代表取締役)  
 ファスニングお取引先：山本 剛  
 (株式会社ゴールドウイン 総合企画本部  
 マーケティング室 室長)  
 ナチュラリスト：松木 紀久代  
 (黒部峡谷ナチュラリスト研究会 事務局長)  
 近隣自治体：中谷 松憲  
 (黒部市 市民生活部市民環境課 課長補佐・  
 環境係長)  
 環境団体：浦谷 一彦  
 (公益財団法人とやま環境財団 協働交流課長)  
 地域住民：中村 敏幸  
 (村椿自治振興会 副会長)

前列左から：  
 学生代表：尾形 順成  
 (富山県立大学工学部環境工学科)  
 消費者：稲垣 里佳  
 (富山県地球温暖化防止活動推進員)  
 海外留学生(中国福建省)：金 俊  
 (富山県立大学大学院工学研究科環境工学  
 専攻)  
 ファシリテーター：九里 徳泰  
 (富山県立大学工学部環境工学科 教授)

(敬称略)

YKKグループは、対話を通じてステークホルダーの皆様と意見を交換するステークホルダー・ダイアログを2010年より毎年開催しています。第4回目は2013年4月9日に黒部事業所にて開催。前年に引き続き対話をうながすファシリテーターとして富山県立大学教授の九里徳泰先生をお迎えし、「地域社会の中でのYKK」というテーマのもと、「YKKグループにおける社会的課題の解決」と「自然界との共生」について意見を交換しました。

### 事業所見学と2012年度活動報告の後、ワークショップ形式で意見を交換

午前中は、九里先生によるオリエンテーションと黒部事業所見学の後、YKKグループより、過去のステークホルダー・ダイアログなどでいただいたご意見に対する2012年度活動報告をさせていただきました。午後からは、9人のステークホルダーが3つのグループに分かれ、YKKグループ社員を交えたワークショップ形式でディスカッションを行いました。

#### オリエンテーションのポイント

テーマ	
地域社会の中でのYKK	
4つのキーワード	
1	環境教育(ESD)※
2	サプライチェーン
3	エネルギー
4	グローバル化

※ Education for Sustainable Development (ESD)。ユネスコが推進する持続可能な社会づくりのための教育。2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)」で日本が提案し、採択された。



### ワークショップ1： YKKグループにおける社会的課題の解決提案



ワークショップ前半では、まず午前中の事業所見学と活動報告で「気になったこと」について意見を交換。続いて、「YKKグループが取り組む社会的課題の解決」について話し合い、主な意見をボードに張りつけました。3グループの意見が出揃ったところで、各グループの代表より発表と提案を行いました。

#### Group 1

#### 環境への会社の取り組みをいかに広く知ってもらおうか？



“語りつがれていく取り組みが大事”  
 「社員」が起点となって「地域社会」や「自治体」、「周辺企業」へと輪を広げていくことを提案します。メディアを通じた情報発信よりも、地域とのコミュニケーションが大事です。黒部市全体の環境対策においても、地元企業と連携を深め、YKKの先進的なノウハウを共有するなど、主導的な役割を果たすことを期待します。また、次世代教育の取り組みの一環として、環境教育そのものをYKKが行うなど、幅広い年齢層に環境意識を浸透させてほしいと思います。

#### Group 2

#### 不良品・廃棄物の出ないものづくりは可能か？



“意識を変えることが大切”  
 不良品はなぜできるのか？に始まり、不良品を出さない技術、製造設備は可能かということを中心に話し合いました。また、産業廃棄物に関しては、社外から納品される梱包材が焦点となり、「納入企業と連携して廃棄物の出ない梱包形態を考える」というアイデアが出ました。さらには「そもそも不良品・産廃というものはない」、「産廃」という言葉自体をやめ、リサイクル資源として活用の道を探る」という意識の転換を求める意見もありました。

#### Group 3

#### 工場における環境対策をさらに進めるには？



“地域社会との協働が不可欠”  
 廃棄物の回収・有効利用、温暖化対策、省エネ・創エネ、移動のスマート化などさまざまな対策が考えられます。その中で、もっとも重視するのは「地域社会とのコミュニケーション」です。環境対策は工場単独ではできません。地域の生物多様性に目を向け、産業観光の活性化や地域の文化資産の活用などを目的するためにも、地域社会の協力が欠かせないものだと考えます。



## 社会とともに歩む、YKKグループのものづくりに期待すること

### ワークショップ 2: YKK黒部事業所「ふるさとの森」とビオトープ



ワークショップ後半では、黒部事業所内の「ふるさとの森」とビオトープを → 続いて、「ふるさとの森」とビオトープの活用方法についても、前半と同様に → 各グループの代表より発表と提案があったのち、九里先生による全体のまとめがありました。

#### Group 1

##### “子育てと地域のつながり、安全・安心のための「場」を提供”

森づくりによる「場」の提供として、すぐに思い浮かぶのは社員の家族サービスや子どもの遊び場です。また、センターパーク内の「丸屋根展示館カフェ」を拠点にすれば、親子がともに楽しむことができます。コンサート、お絵かきコンクールの開催などのほか、外来種対策などでの協働も考えられます。さらに、地域の安全・安心という意味では災害時の避難場所や避難訓練にも使えると思います。

#### Group 2

##### “次世代教育とイベントづくりに活用”

森の活用方法としてまず考えられるのが、次世代教育への活用です。渡り鳥の飛来時期を学ぶなどの活動のほか、全国の小中学校からテーマを募集して定点観測を実施したり、立山登山を含めたエコキッズキャンプなどの企画も実現できそうです。YKKセンターパークを入場自由にしていても効果的です。小中学校へのPRとともに、社員に対しての周知も活発に行ってほしいと思います。協働は「ともに働く」なので、地域住民と一緒に植樹をするのも良いアイデアだと思います。

#### Group 3

##### “成長する森を地域社会で共有できる資源に”

「5年後、10年後、50年後、100年後」の森の姿をイメージしてみました。たとえば5年後は、鳥たちの住処を観察したりするなど、子どもたちの学習に役立つと思います。10年後は間伐材で遊具をつくらんでもできます。また、YKK 50ビルの屋上を開放し、上から眺められるようにします。50年後には成長した木を使って木製サッシの生産や次世代の家づくりが、100年後にはさらにその次の世代による住まいづくりができるかもしれません。また、黒部周辺の事業所もすべて森でつなげると「森のなかの工場」が実現すると思います。

##### 「集いの場」から「地域づくり」へ

- 100年後
  - 近隣工場を森でつなげる
  - 「森のなかの工場」を中心とした地域づくり
- 50年後
  - 間伐材を使った木製サッシの生産
  - 次世代の家づくり
- 10年後
  - 間伐材を使った遊具づくり
  - YKK 50ビル屋上を開放
- 5年後
  - 小鳥の住処を提供する
  - 地域に開放し、家族で楽しんでもらう

### 2012年までのご意見に対する活動報告と、自然界との共生に向けた継続的な取り組み

#### エコプロダクツ・ものづくり

##### ■感性工学、ユニバーサルデザイン

ひとつの動作で窓を解錠できる「戸先錠」や子どもでも簡単に操作できる「スマートコントロールキー」を発売しました。

##### ■低炭素社会・循環型社会、社会構造の変化への対応

石油使用量を大幅にカットした紙ファスナーや住宅のCO<sub>2</sub>排出削減に貢献する「APW330真空トリプルガラス」を発売しました。

#### 地域社会

##### ■各種出張授業

保育所などへ社員が出向し、環境教育を行いました。

##### ■環境教育(ESDなど)

保育所での教育のほか、2012年度から富山県が実施するESDプログラム「とやまエコキッズ探検隊」に協力しています。

#### コミュニケーション

##### ■ものづくり成果の「見える化」

社外表彰制度の活用など積極的なコミュニケーション活動を推進しています。

#### 自然界との共生

##### ■地域の生態系保全(ビオトープづくりとESDの活用)

「ふるさとの森づくり」として2008年度から植樹を開始しました。その森づくりを活用した自然体験教育プログラムを実施しています。また、森の成長を知るため5年ごとに生物調査を実施します。

##### ■黒部川扇状地全体を見据えた地下水利用調査

黒部川扇状地を流れる地下水の持続的な利用を目指し、富山県立大学講師の手計太一先生に地下水に関する調査・研究を依頼しています。現時点で長期および季節的な地下水位変化がわかってきました。



YKKセンターパーク入口(左手にあるのが、ダイアログ会場となった「丸屋根展示館カフェ」)

### ステークホルダー・ダイアログを通して



“地域社会の中でのYKK”  
一企業の役割と協働のあり方について再考する良い機会に

九里 徳泰  
(富山県立大学工学部環境工学科 教授)

「継続は力なり」と言いますが、このような対話の場を4年間YKKグループが持続的に開催したことをまず高く評価します。ステークホルダーも新しい取引先と海外留学生がさらに増えました。本年は趣向を変えて社員も参加するワークショップ形式で、課題を参加者全員で見

つけ解決案を出すという、より自由な発想が生まれる場を設けました。そこでは、会社の環境の取り組みをいかに広く知ってもらうか、不良品・廃棄物が出ないものづくりはできないのか、工場環境対応はいかにあるべきかの3つが課題としてあげられ、活発な意見交換が行われました。またYKKグループと地域との協働に関して、ビオトープ・森林の活用をテーマにしたところ、教育・イベントの場、100年後を考えた森づくり、つながりとプロセスといった具体的なあるべき姿が提案されました。今後はこの対話の場を他の事業所への展開も検討中とのことで、ぜひ海外への展開も検討していただきたいと思っています。



# 人々との協働による持続可能な地域づくり

## 地域貢献

### 東北復興を応援

YKKグループでは、東北エリアの事業基盤の再構築を進める一方で、事業を通じて同地域の復興を支援しています。そのひとつが、被災地域の窓をよくしながら東北復興を応援する“MADOショップ(※)東北復興応援プロジェクト”です。

YKK APは東北地域の建材流通店とのパートナーシップのもと、MADOショップを岩手・宮城・福島の3県に直営店3店舗を含む100店舗展開し、「増やそう“笑顔の咲く窓辺”」をテーマに活動を続けています。

このプロジェクト活動の一環として、2013年1月、Tポイント・ジャパン(TPJ)が展開する「Tカード提示で被災地の子どもたちに笑顔を。」プロジェクトによって建設された、宮城県東松島市の「こどものみんなの家」にアルミ樹脂複合サッシ「エピソード」を提供しました。

これからも各地域の皆様が安心して相談できる“わが街の窓のお店”として、各店舗が被災地域の住環境の早期復旧・復興への貢献を目指し、窓を中心としたさまざまな提案活動を進めるとともに、復興に向けた支援活動にも取り組み、被災地の皆様に笑顔を届けていきたいと考えています。

※窓についての相談から診断、提案、契約、施工、アフター対応までを一括して行う生活者向けの店舗ブランド

“MADOショップ東北復興応援プロジェクト”で開設した、YKK AP直営の3店舗



仙台芭蕉の店



盛岡ゆいとびあ店



郡山安積永盛店

### 壊れたファスナーを無料で修理(フィリピン)

YKKフィリピン社では、マーケティングを兼ねた社会貢献活動として、“Your s' Kool Kiosk: Zipper Mo, Sagot Ko (ユア・スクール・キオスク: あなたのジッパーを無料で直します)”プロジェクトを2012年に立ち上げました。このプロジェクトでは、フィリピン・バタンガス州の公立学校に社員が出張してその場で壊れた制服のファスナーの修理を行っています。各校で100着の制服のファスナーを修理することを目標としており、2012年8、9月に訪問した4校では、計504着の制服のファスナーを修理しました。

また、YKKスリランカ社でも、制服用のファスナーを無償で提供する活動を行っています。



その場でファスナーを修理するYKKフィリピン社社員

### 小学校で安全に関する意識啓発(イタリア)

YKKイタリア社では、幼少時から安全に対する意識を高めることが重要と考え、地域の子どもたちを対象に、「安全」をテーマにした絵画コンテスト「「引き手」デザインコンテスト」を2011年より実施しています。2回目の実施となる2012年5月のコンテストでは、80点以上の応募があり、建築家Luca Villani氏を中心とする審査員により5点が優秀賞に選ばれました。



コンテストのポスター

## 次世代教育支援

### 森づくりと連動した教育活動

YKKグループでは、地域社会の一員として事業活動を推進し、地域の活性化や教育、そして国際交流のバックアップなど、未来を担う子どもたちへの教育を支援しています。

黒部事業所では、黒部の原風景の再生を目指し、敷地内で「ふるさとの森」づくりに取り組んでいます。2012年8月、富山県内の小学生が親子で参加する「とやまエコキッズ探検隊」をこの自然を利用した社会貢献を目的に開催しました。「ふるさとの森」と「ふるさとの水辺」(「ふるさとの森」に隣接するビオトープ)で、実際に生息している動植物を観察し、生態マップとして観察結果をまとめました。参加者からは「これからは生き物や植物をもっと大切に考えて環境に優しい暮らしをしていきたい」という感想もあり、今後も子どもたちに楽しく環境の大切さを学んでもらえるよう、成長し続ける黒部事業所の森づくりを活用した環境教育プログラムを実施してまいります。

また、地域の子どもたちで構成された「くろべ水の少年団」では、社員が指導員となり、少年団の活動を応援しています。これからも地域に根ざし、さまざまな形で次世代を担う子どもたちの教育支援を行ってまいります。

(黒部川扇状地の環境保全活動については、25ページもご参照ください。)



「ふるさとの森」の動植物を観察する参加者



完成した生態マップ



水の大切さを学ぶ「くろべ水の少年団」

### サッカーを通じて子どもの健康と成長をサポートする YKK ASIA GROUP KIDS FOOTBALL CLINIC

YKKホールディング・アジア社では、アジアグループの地域貢献活動として「YKK ASIA Group Kids Football Clinic」を2007年より毎年開催しています。

6年目となる2012年には、フィリピンのマニラとカンボジアのプノンペンで3日間わたって開催しました。リアル・マドリッド

財団からのご協力のもと、コーチ3名を招いて、現地のサッカーコーチ30名を交えながら、各国250人程の子どもたちに、さまざまなボール遊びを通じてサッカーの楽しさを伝えました。これからも、このイベントの開催を通じて、現地の子どもたちの健康と成長をサポートしていきます。



YKK ASIA Group Kids Football Clinic



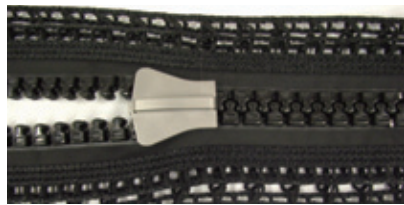
## お客様との協働による付加価値の向上

### さまざまな形での協働による価値創出

#### お客様のニーズに応じた商品づくり

ファスニング事業本部では、サプライチェーンにおける環境負荷低減や化学物質管理を日本だけでなくグローバルベースで徹底して行っています。また、お客様との会話を通じたエコプロダクツの開発にも努めています。

たとえば、漁網用ファスナー「30VF」は、養殖用の生簀や大型定置網、大型トロール船の底引き網等での使用に耐えるサイズと強度のあるファスナーを求めお客様の声に応え、開発されました。「30VF」は1mあたり7tの横引強度を誇るだけでなく、万が一エレメント(ファスナーの噛み合わせ部分)が破損した場合でも、修理が可能な点も注目されています。また、漁業分野だけでなく、産業資材分野などにおける新たな用途においても、お客様からさまざまなご要望をいただいています。



「30VF」ファスナー

#### お客様とともに大切なブランドを守っていくために

お客様が大切に守り育ててきたブランド。その価値を損なう「ニセモノ」(模倣品・海賊版)が世界中で出回っています。偽ブランドの衣料品等の多くは偽YKKファスナーがついているため、YKKにとって、偽ファスナーの排除は、お客様ブランドの信頼性を守るだけでなく、お客様ブランドの偽物排除に貢献するという二重の意味で非常に重要です。そのため

YKKは、世界中に出回っている偽YKKファスナーや偽YKKファスナーのついた衣料品等の排除に向けて、偽ファスナーの製造・販売業者の取り締まりや各地域における供給力と正しい調達強化に取り組んでいます。

2011年からお客様と一緒にブランドを守るという意味で、「Defend Together」をスローガンに掲げた新たな広告を展開し、さまざまなB.P.P. (Brand Protection Partnership) 活動を推進中です。YKKはこれからも関係機関と協力しながら、偽物の排除に努めます。



DefendからDefend Togetherに—YKKの新しいブランド保護広告

#### ファスニング商品の新たな可能性の探求

YKKファスニング事業グループでは、総合展示会「YKK FASTENING CREATION」を毎年各地で開催し、ファッション製品向けのYKKファスニング商品の展示はもとより、さまざまな分野における新たなファスニングソリューションの提案を行っています。

同時に、YKKのファスニング商品に焦点を当てた学生対象のファッションコンテスト「YKKファスニングアワード」を開催しています。

#### 「第12回YKKファスニングアワード」グランプリ受賞作



「瓦屋根」  
(アパレル部門)



「アフリカ旅」  
(ファッショングッズ部門)

### 「使う」立場に立った商品開発

#### 性能だけでなく「使いやすさ」や「安全・安心」も追求

YKK APは、商品としての機能や環境性能だけでなく、「使いやすさ」や「安全・安心」にも配慮した窓・ドアの開発に取り組んでいます。

たとえば、引違い窓・片引き窓の引手と錠を一体化した「戸先錠」は、窓を開け閉めするだけで同時に解錠できるようにしています。

また、新世代玄関ドア「スマートドア」には、「スマートコントロールキー」を標準装備。カードキーやシールキー(\*)をハンドルに近づけて施錠するタイプと、リモコンキーを身につけた状態でハンドルのボタンにタッチして施錠するタイプの2種類があります。

いずれの商品もワンアクションで操作でき、かつ事故防止や防犯性にも優れているのが特徴です。大人はもちろん子どもにとっての使いやすさが評価され、第6回キッズデザイン賞(2012年)を受賞しました。

※携帯電話など持ち物に貼って使えるICチップ内蔵シール。



「使いやすさ」や「安全・安心」を追求した商品  
左：片手で簡単に開閉でき、閉めた際に自動的に施錠される「APW「戸先錠」」  
右：子どもでも簡単に開閉できる「スマートコントロールキー」

#### 3社のコラボレーションでリモデル空間提案力を強化

TOTO、大建工業、YKK APの3社(TDY)は、2013年2月に提携12年目を迎えました。

2012年には3社のリモデル情報発信の拠点となる旗艦ショールーム「TDY東京コラボレーションショールーム」をオープンし、さらなるお客様満足度の向上を目指しています。3社共同のコンセプトである「グリーンリモデル」では、各社それぞれの技術を活かしたコラボレーションで「健康配慮」、「長もち住宅」、「CO<sub>2</sub>削減」をテーマに商品・空間づくりを提案しています。家族それぞれのライフスタイルや暮らしの夢に応えながら、人にも地球にも優しい住まいの実現を進めています。

#### あらゆる場面で安心を実現

##### 震災時の閉じ込めリスクの軽減

集合住宅で地震発生時に玄関ドア枠が変形すると、扉が開けなくなり室内に閉じ込められるおそれがあります。「扉交換工法 対震仕様」によってドアを交換し、新しく設置するドアと既設枠との間に適度な空間を設けることで、そのようなリスクを低減できます。

一戸あたり約90分の施工時間で、ドア枠はそのまま地震に備えたドアに改修することができます。



##### 指はさみ防止用ストッパー

引違い窓・片引き窓の操作時に指を挟んでしまう事故を防止する商品です。サッシ縦枠に取り付けることによって、窓と枠との間にすき間を設け、指を挟むことを防ぎます。

国内では高齢化を背景に「サービス付き高齢者向け住宅」の整備が進められていますが、こうした集合住宅などを中心に普及を図っていきます。

「指はさみ防止用ストッパー」



TDY 3社のリモデル情報発信の旗艦ショールーム「TDY東京コラボレーションショールーム」



# 1. とともに価値を創造できる「森林集団<sup>(※)</sup>」の育成

## 社会の変化を見据えたキャリア形成支援

### 森林集団とは？

“一本一本の木が独立しながらも森林を形成するように、YKKグループの一人ひとりが「皆が経営者」という意識を持ち、全員が手を携えて一緒に大きく育つ森林組織である”という考え方

### 「働き方“変革への挑戦”プロジェクト」が始動

YKKグループでは、定年退職制度の廃止を将来に見据えた「働き方“変革への挑戦”プロジェクト」がスタートしました。

国内では少子高齢化による労働人口減少や公的年金の支給開始年齢の引き上げといった社会の変化を背景に、長く働き続けることが社会的要請になると同時に、働き方についての意識改革が大きな課題となっています。YKKグループでも、定年制度をはじめとする人事制度の見直しが急務となっています。

「働き方“変革への挑戦”プロジェクト」は、人事制度の改革はもとより、社員一人ひとりが自らの人生設計に合った働き方を主体的に選ぶことを主旨としています。会社側も、そうした多様な働き方を受け入れるために、真に公正な組織となる、すなわち、「公正な制度を、公正に運営していくこと」が一層求められます。

このような考えから、YKKグループでは以下3つの基本政策を実施します。

1. 「公正」を基軸とした制度設計・制度運用  
年齢・性別・学歴・国籍にかかわらず人事制度
2. 「仕事(役割)」による評価・処遇  
同一役割・同一成果・同一処遇の実現
3. 自律: 会社は自ら設計する“自分の人生”の一プロセス  
会社が提示した働き方を活用した自律型人生設計を奨励

これらの政策を通じて、人事制度のあらゆる面から年齢を判断基準とする制度運用を排除し、あらゆる社員に「均等な機会が与えられ、登用や給与といった評価や処遇が透明で公正な会社」を実現します。個々が自分にふさわしい働き方を選択することで、自律的に成長し、会社の成長により一層貢献していく、プラスの循環の拡大を期待しています。

### 再雇用制度(エルダー制度)から定年廃止への移行

YKKグループでは2005年度より60歳以上の社員を対象にした再雇用制度(エルダー制度)を導入してきましたが、2013年度からはそれを定年延長に切り替えていきます。そのため、2013年度から2025年度にかけて定年退職年齢を現在の60歳から段階的に65歳まで引き上げる計画です。

### ダイバーシティ(多様性)に対応した職場づくり

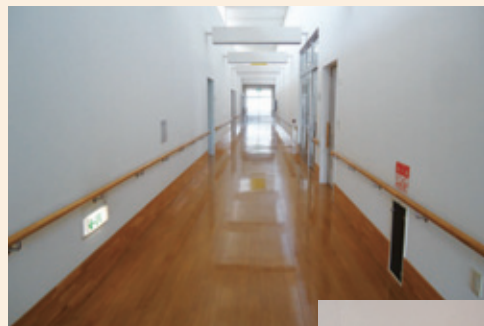
YKKグループでは、あらゆる従業員が仕事において能力を十分に発揮し、長期的なキャリア形成ができるよう、多様な働き方を受け入れるための公正な制度設計を進めています。

たとえば、育児中の社員に対しては、最長で子どもが2歳の誕生日を迎えるまで利用することができる「育児休業制度」を設けるほか、「育児休業奨励金制度」の導入により男性の育児休業取得も促進しています。育児休業復帰後も、最長で子どもが小学校に入学するまで利用できる「短時間勤務」や「時差勤務」、小学校3年生まで利用できる「子育て看護休暇」などの制度が用意されています。現在の「育児休業制度」の利用者は年間272名です。また、さまざまな両立支援とあわせて、社員一人ひとりに合った教育プログラムを実施しています。

YKKは2013年度から、YKK APは2012年度からダイバーシティの企画・推進の専門部署を設置し、多様な人材の活用の推進(女性の活躍推進や障がい者雇用)に取り組み、働きやすい労働環境の整備をさらに進める方針です。

### 誰もが安心して働ける職場づくり(YKK六甲)

YKKグループの障がい者雇用比率は2012年度に1.96%となりました。印刷事業の特例子会社、YKK六甲株式会社では、徹底したバリアフリー環境を整備するなど、重い障がいのある方も安心して働ける職場づくりに取り組み、業務範囲の拡大を図っています。また、地域の障がい者施設を取材訪問し、施設に関する情報をウェブ等を通じて共有するなど、地域社会との交流にも積極的に取り組んでいます。



バリアフリーで災害時の安全性にも配慮した職場



パトライトが光るので聴覚障害のある社員にも地震の予兆を知らせることができる

## ものづくりは人づくり

### ものづくり技術の伝承

#### ■技術研修室(ファスニング事業本部)

生産のグローバル化を背景に、海外工場の多様なニーズに対応できる、専門性と総合力を兼ね備えたグローバル人材の育成が急務となっています。そのような人材を育成するため、YKKファスニング事業本部では、2011年4月に社内研修組織を立ち上げ、社内専門家が講師となり各種研修を行っています。

ものづくりをグローバルに支える人材を育成するには、ファスニング製造の原理原則を理解した上での専門知識とスキルに加えて、製造工程全般に対する幅広い知識やマネジメントスキルを習得させる必要があります。そのために、社員の専門に応じた個人指導型のスキル習得研修と、技術基礎知識習得講習、工場マネジメント知識習得研修の3本柱で研修企画を実施しています。

#### ■保全道場(YKK AP)

近年、機械やその制御における技術の高度化と社員の高齢化により、保全技術の向上と伝承が必要になってきています。

そこでYKK APでは、TPM<sup>(※)</sup>活動を通じた人づくりの一環として、保全技術を伝承し現場力の向上を図ることを目的とした「保全道場」を2008年の九州事業所から順次開設してきました。受講者のレベルに合わせたカリキュラムを設定し、保全技能のスキルアップとライン改善に活かせる技能が身に付けられるよう図られています。黒部越湖製造所では2011年にTPM優秀賞を受賞するなど、着実に成果が上がってきています。

※ Total Productive Maintenanceの略。公益社団法人日本プラントメンテナンス協会によって1971年に提唱された概念で、「全員参加型の生産保全」を意味する。

#### ■技能道場(工機技術本部)

機械加工の自動化が進んでいる現在、加工・組立の基礎理論をしっかりと理解し実践できる人材の育成が重要な課題となっています。

そのため工機技術本部では、2009年度より加工・組立の基礎知識・技能について育成する場「技能道場」を開設し、ものづくりの技能伝承に取り組んでいます。主に新入社員など若手技能者・技術者を対象に、60歳以上の「エルダー社員」や「エキスパート社員」など卓越した技能を持つ指導者が育成を行い、創業以来の歴史の中で蓄積されてきた貴重な技能伝承を図っています。



機械組立基礎研修



空圧実習



加工基礎知識研修



## 2. 安心して働き続けられる職場づくり

### 労働安全衛生

#### 労働災害ゼロ化に向けて

YKKグループでは、各事業所において労働災害ゼロ化に向けて取り組んでいます。

国内だけでなく、海外拠点においても災害ゼロ化達成に向けて、定期的な安全点検やリスク分析、工程の見直しなどを行っています。従業員一人ひとりに対しても、機器や化学物質の取り扱いに関する研修や応急処置訓練を定期的に行い、安全意識の向上に努めています。

近年では特に、労働現場における設備・環境の整備等安全対策が進んだことにより身近に災害を体験する機会が減少し、「何が危険か」、「どうなれば危険か」を直感的に把握し難い状況となっています。また、経験の長い従業員では「慣れによる油断」、「心身の衰え」などから被災につながるケースが増加してきています。このような現状を踏まえ、労働災害防止対策の柱として各事業では危険体感教育を導入して「危険」に対する感受性を高め、適切に対応できる能力を養っています。実際の機械などを使用して労働災害を模擬的に「見て・聞いて・感じる」ことにより、日常作業の中にも常に危険となる作業が存在していることを確認できます。

さまざまな教育機会を通じて危険感受性を向上させ、「労働災害ゼロ」へ向け取り組みを推進していきます。



黒部事業所「危険体」



ギア巻き込まれ体感機



東北事業所「体得館」

#### ■「危険体感塾(危体塾)」参加者のコメント

“巻き込まれていく割割が自分の指と重なり恐怖を感じた。指だけでなく腕までも持っていかれ、命を失う危険性があると感じた。”

“有機溶剤・粉塵爆発は普段、仕事の中でなかなか危険予知しにくい。日頃からの5S活動が重要だと感じた。”

“機械の保全・点検時等には必ず機械を停止させ、決められた手順をしっかりと守ることの大切さを確認できた。”

“過去にヒヤリとした経験があったので、改めて危険性を実感することができた。”

#### 作業環境改善への取り組み(上海YKKジッパー社)

上海YKKジッパー社は、より働きやすい作業環境を実現する一環として、重量物取り扱いの機械化を進めています。作業者の腰痛対策や重労働の省力化を推進することで、事故などによる休業や離職を防ぐのが狙いです。

現在、ダイキャスト溶解炉に垂鉛インゴットを投入するロボットや製品コンテナの上げ下ろし用の補助装置であるエアバランサーの導入を完了しています。従業員からは「作業が楽になった、感謝している」といったコメントが寄せられています。

これからも作業者に優しい職場づくりに取り組み、魅力ある工場を目指していく方針です。



エアバランサーを使用した作業の様子



ロボットアームによるインゴットの上げ下ろし

#### 持続的に働き続けるための健康づくり

YKKグループ各社において持続的に働き続けるための健康づくりに取り組んでいます。

定期的な健康診断の実施やインフルエンザ等感染症の予防接種に加えて、生活習慣病予防やメンタルヘルスの観点から、地域のマラソン大会や社内のスポーツ活動などへの参加を推奨しています。

#### 健康づくりのためのスポーツ活動



サイクリング活動(YKKポルトガル社)

#### ■海外拠点での取組事例

- ・予防接種(インフルエンザ、デング熱、その他感染症)
- ・社内クラブ活動(サッカー、ランニング、ダンスなど)
- ・健康モニタリング、医師による定期的な職場巡回
- ・ウェルネス(健康増進)プログラムの実施
- ・社内報・掲示板の健康だより
- ・職場での始業前体操の実施



蘇州金鶏湖マラソンへの協賛・参加(蘇州YKK工機会社)

### 災害リスク管理

#### 震災対応

2011年3月11日の東日本大震災は、岩手県、宮城県、福島県の東北3県に甚大な被害をもたらしました。YKKグループでも、東北事業所が被災し、長期間の操業停止を余儀なくされました。

YKKグループは震災以前からも、建物の耐震補強、緊急地震速報システムの導入、定期的な避難訓練などを行ってきましたが、今回の経験を踏まえ、初動対応マニュアルの全社的な見直し、耐震化計画の策定と実施、事業継続計画(BCP<sup>(\*)</sup>)の策定などの新たな対策を現在進めています。特にBCPに関しては、



地震体感訓練(地域の方も参加)

「人命保護」を最優先に、「資産保全と業務継続」と「地域貢献」を加えた3つを基本方針としながら、事業所ごとに検討・推進していきます。

\* BCP: Business Continuity Plan

#### 防災活動を通じた地域貢献(ドイツ、トルコ)

YKKグループの海外各社では、地域の事情に合った独自の防災活動が実施されています。これらの中には、地元企業などと協働して地域の防災に貢献した例もあります。

たとえば、ドイツ・ヴッパータール市に拠点を置くYKKシュトゥック社は、市の環境当局が主催した「重大事故」(ドイツ連邦排出規制条例に規定される重大な漏えい事故)を想定した拡散シミュレーションに地元企業とともに参加し、地域における化学物質流出リスクの検証に貢献しました。

また、YKKトルコ社は、英国の小売大手とトルコ地震財団とが共同で企画した防災トレーナー研修プログラムに社員を派遣し、その社員がプログラム終了後にYKKトルコ社の社員295名に対して防災研修を行いました。



YKKトルコ社での防災訓練



# 1. 環境経営と次世代ものづくり

## 環境への取り組み姿勢

**YKKグループ環境宣言**

恵み豊かな地球環境を守り、健全な姿で次世代に伝えることは  
今や人類共通の最重要課題と認識されています。  
YKKグループは、『地球にやさしい企業』を目指し、  
「環境との調和」を事業活動の最優先課題として取り組み、  
推進することをここに宣言します。

1994年9月20日

**YKKグループ第4次中期環境経営方針  
(2013～2016年度)**

—持続可能な社会づくりへの貢献—

小エネ・省エネを追求したものづくりの創造

YKKグループは、環境宣言に則り、環境に配慮し、  
技術力を活かした新しい価値を創造することで、  
持続可能な社会づくりへ貢献してまいります。

### 第4次中期環境経営方針を策定

YKKグループは、環境政策の基本姿勢である「YKKグループ環境宣言」に基づき、中期の環境経営方針を2001年度より4年ごとに策定しています。2013年度からは新しい環境経営方針のもと、持続可能な社会づくりへの貢献に向けた環境政策を推進します。

第4次中期環境経営方針では、「グリーンイノベーション (Green Innovation)」と「環境価値の創造 (CSV: Creating

Shared Value)」を新たな重点テーマとして取り組んでまいります(下の図をご覧ください)。YKKグループは、これまでも環境に優しい商品の開発と普及や事業活動の環境負荷低減などに取り組んできましたが、これからは「社会的課題に対して何ができるか」、「お客様やお取引先様と一緒に何ができるか」をより強く意識した活動を推進していきます。



## 環境に優しい商品とプロセスの開発と普及

### 環境に優しい衣類づくりに貢献

ファスニング事業では、リサイクル対応型商品や植物由来の原料を使った商品の開発に取り組んでいます。

たとえば、「ナチュロン」は、ペットボトルや古繊維などのポリエステル端材を再利用した省資源の循環型ファスナーです。「ケミカル・リサイクル」型と「マテリアル・リサイクル」型の2種類があります。同系素材を使用しているためリサイクルしやすいのも特徴です。

それ以外にも、オーガニックコットンをテープ地に使用したファスナーや、微生物により分解可能なファスナーなどを提供しています。



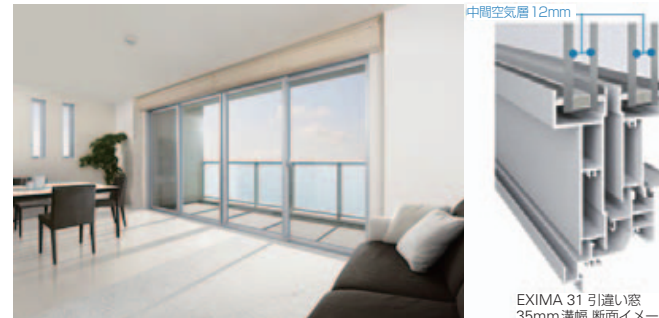
環境配慮型ファスナー「ナチュロン」  
「プリファ」でカラフルなグラフィックをプリントしています。

\*「ナチュロン」、「プリファ」はYKK株式会社の登録商標です。

### ビル用サッシの断熱化

集合住宅や商業ビルなどの建築物は、鉄筋コンクリート造などにより建物自体の断熱性が比較的に優れているため、木造の戸建住宅と比べて開口部の断熱化が遅れています。

YKK APでは、地球温暖化防止に向けてビル建築分野の省エネ水準を押し上げるべく、ビル用基幹商品「EXIMAシリーズ」においてより高い省エネ効果を発揮する中間空気層12mm複層ガラスへの対応を可能としました。豊富な窓種バリエーションで建物全体の窓に対応し地球温暖化防止、快適な室内環境の実現に貢献します。



ビル・集合住宅の電力使用量を最大19%カット「EXIMAシリーズ」  
環境性能に加えて安全性や使いやすさ、ユニバーサルデザインにも配慮しています。

### 1住戸あたりの年間CO<sub>2</sub>排出量比較



※当社試算 集合住宅モデル(中住戸)、東京の場合  
※Low Emission: 低放射線(放射熱を抑える金属皮膜がついた商品等を指す)

### 非溶接工法

YKK APは商品だけでなく、それを建築物に取りつける施工の工法にも着目し、環境負荷の少ないプロセスの開発に取り組んでいます。その最新の例が、ビル用サッシ施工の際に溶接を用いない無火気の工法である「非溶接工法」です。集合住宅やビル建築へのサッシ施工の際に、従来のアーク溶接による固定では必要だった資材や溶接に使用する動力電源が不要となり、省資源と省エネに配慮した工法となっています。また、無火気のため施工中の火災リスクがなく、安全・安心なビル用サッシ施工を可能としています。

\*「非溶接工法」は、鉄筋コンクリート造や鉄骨造ALCパネル仕上げの建築物が対象です。



高強度樹脂接合方式  
樹脂剤を注入し、サッシを固定することができます。



## 2. エネルギー・地球温暖化への取り組みと生物多様性の保全

### 地球温暖化防止：小エネ・省エネの追求

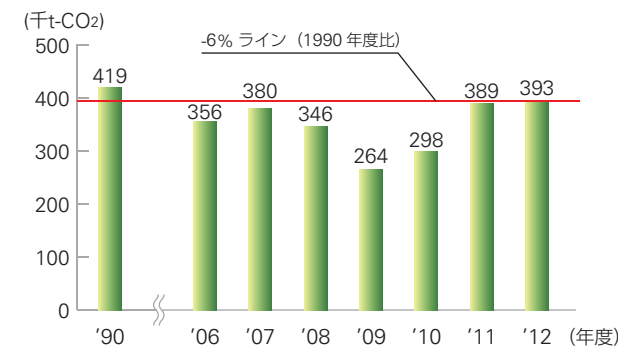
#### 「エネルギー改革」の取り組み

東日本大震災を契機としたエネルギー環境の大きな変化（原発停止による全国的な電力不足や燃料価格上昇など）により、日本社会全体として、これまで以上に抜本的なエネルギー対策を打ち出していくことが喫緊の課題となっています。

YKKグループでは、従来の節電などの取り組みに加えて、「小エネ・省エネを追求したもののづくりの創造」をキーワードとして、高効率の生産体制や省エネ技術、設備開発などの技術力を活かした施策を遂行し、企業の社会的責任の取り組みをさらに継続・拡大していく方針です。

そのため、まずはグループ中核拠点である黒部事業所において「エネルギー改革」を実現し、そのモデルを国内拠点および世界各地に展開する予定です。

CO<sub>2</sub> 排出量実績（YKKグループ国内全拠点）



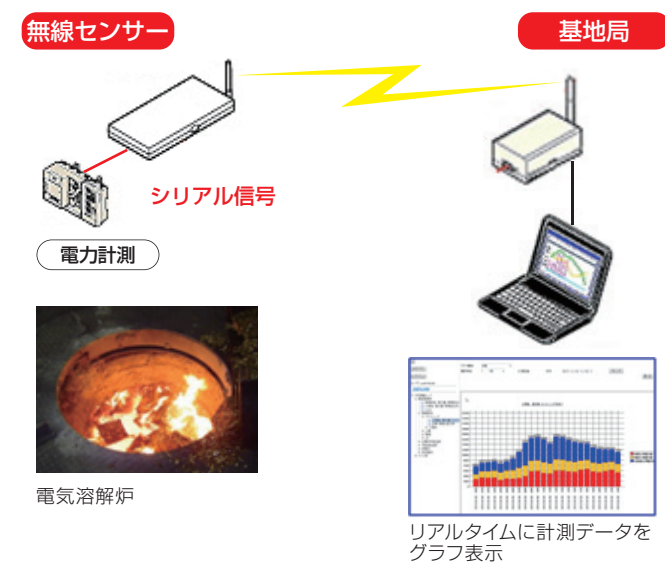
\* YKKグループ温室効果ガス(GHG)算定ルール(電力のCO<sub>2</sub>換算係数変動)では、「2012年度までに1990年度比23%削減」の目標は、原発停止の影響により未達成。ただし、1990年の電力のCO<sub>2</sub>換算係数で算出した場合は-28.6%となり目標達成。YKKグループの温室効果ガス(GHG)算定ルールは、<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/report/2013/ecology/ecology03.html> を参照ください。

#### 電力消費量の“見える化”でCO<sub>2</sub>排出削減を実現

ファスニング事業で電力消費量の大きい金属材料製造部にて、電力消費量のさらなる削減に向けて新たに開発したエネルギーマネジメントシステム「YKKファスニング事業CO<sub>2</sub>排出量管理システム(YFCO<sub>2</sub>)」が、2012年4月より本格運用を開始しました。

エネルギーロスの“見える化”を実現することで、事業活動における最適なエネルギー管理を行うことが可能となり、電力消費量の削減およびCO<sub>2</sub>排出削減の効果がなされてきています。また、同時にデータ解析を稼働分析や品質分析に活用することで、生産品質の向上、生産性の向上につなげます。

YFCO<sub>2</sub>イメージ図



電気浴解炉

リアルタイムに計測データをグラフ表示

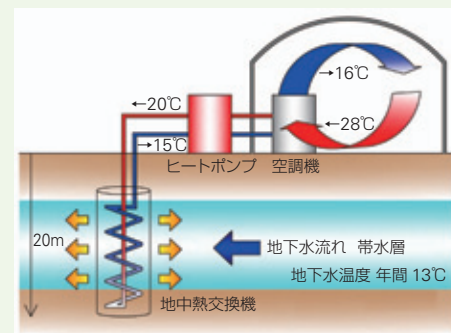
#### YKK黒部事業所「丸屋根展示館」地中熱利用空調システムの導入

YKKグループでは、「エネルギー改革」の一環として、再生可能エネルギーの利用拡大を検討しています。その取り組みのひとつが、黒部川扇状地の地下水熱を利用した空調システムの導入です。

黒部川扇状地は、透水性の良い砂れき層からなり、地下水位が高く、豊富な地下水に恵まれ、多くの湧水がある国内有数の扇状地です。地表面付近の層の地下水はろ過が不十分なため飲用に適さず、これまで未利用でしたが、速い地下水流速(地下5m付近で0.6m/h以上)に着目し、この地下水熱を利用した空調システムを2012年度、黒部事業所の「丸屋根展示館」に導入しました。

この空調システムでは、地下水を汲み上げずに、地中のチューブ内に水を循環させて採熱するクローズドループ方式を採用しています。地下水流速が速いことからチューブをスパイラル状に巻い

て採熱効率を高めており、従来機に比べて電気使用量半減を見込んでいます。2013年度中にさまざまな検証を行った上で工場にも順次導入していく予定です。



冷房時のイメージ図

### 生物多様性の保全

#### YKKグループ内における生物多様性の理解促進

YKKグループでは事業活動における生産や土地利用が生態系に与える影響を把握するため、「YKKグループ生物多様性影響評価マニュアル」を作成しました。このマニュアルを用いて国内主要生産拠点を評価した結果から、グループとしての課題や拠点間の差が見えてきました。今後はグループ共通の課題に取り組むとともに、拠点間の差を埋めていきます。

また、従業員の生物多様性への理解向上に向け、2012年度には生物多様性の基本から生物多様性が直面している問題、YKKグループとの関係について記した「YKKグループ生物多様性ガイドブック」を作成しました。今後も生物多様性への理解を深めつつ、生物多様性の保全に努めていきます。

#### 工場排水の影響調査

YKKグループの中核拠点である黒部事業所では、工場排水を二級河川に放流しています。排水は高度処理を含む排水処理を行い富山県および黒部市の排水基準を順守していますが、黒部の清浄な水環境を守るため、10年ほど前から排水放流河川の水生生物調査を行っています。水生生物調査は生息

する水生生物(昆虫の幼虫等)から水質を判断する手法で、調査開始以来水質に大きな変化はありませんでした。今後は排水が生態系に与えている影響をさらに詳しく知るため、大学の協力を得ながらWET試験<sup>(\*)</sup>を行っていきます。

\* Whole Effluent Toxicity(全毒性影響評価)：排水をひとつの混合物と捉え、藻類、甲殻類、魚類への影響を評価する試験

#### 水生生物調査

2012年度の水生生物調査は、環境教育の一環として富山県立大学の学生たちにも参加してもらいました。

水生生物調査による排水放流先河川の水質等級には調査開始以来ほとんど変化ありません。しかし、評価対象外である魚類の種数が豊富になったことや、最下流の調査地点における生物の捕獲数が増加していることなどから、徐々にではありますが排水放流先河川が豊かになっているように感じます。



学生による水生生物調査の様子

#### 生物多様性影響評価を国内9拠点で実施

YKKグループでは、場所により変化する生物多様性の関係を評価した上で、環境活動から生物多様性へ与える影響を評価しています。

<評価地点と生物多様性の関係評価の例>

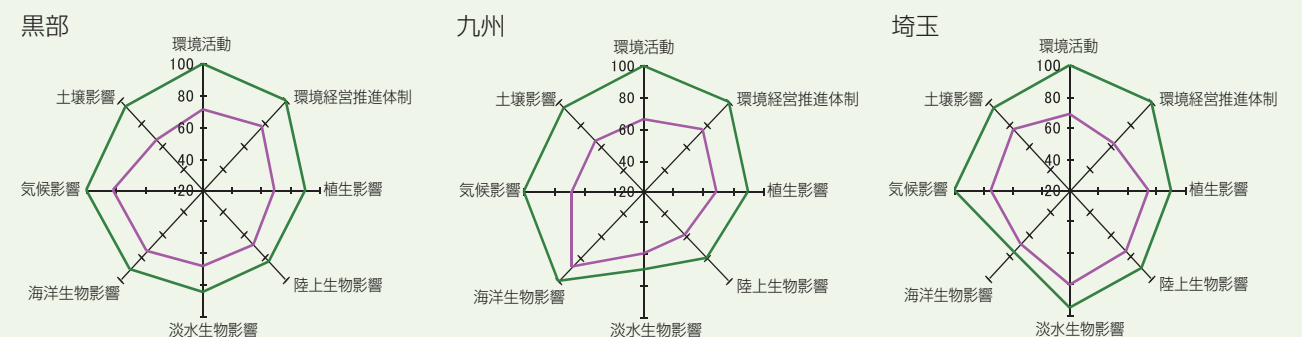
【黒部】海に近く、排水を河川に放流しているため、淡水生物・海洋生物の両方に対し影響が大きくなっています。

【九州】海に接し、排水を海に放流しているため、海洋生物への影響が大きい反面、淡水生物への影響は小さくなっています。

【埼玉】排水を河川に放流しているが、海が遠いため、海洋生物への影響は小さくなっています。

2012年度は国内主要9拠点を評価を実施しました。その結果、「騒音・振動対策」、「省エネ対策」、「フロン類管理」、「廃棄物リサイクル」に関しては全体的に取り組んでいる一方で、「植物資源調達への生態系配慮」、「生物の移動経路への配慮」、「鉱物資源調達への生態系配慮」などに関しては、さらなる取り組みが必要であることがわかりました。

#### 評価結果の例



○：評価地点との関連性 ○：各拠点の取り組みの程度 緑線と赤線の差が小さいほど良い

\*詳細はウェブサイトで紹介しています。



### 3. 環境リスクに配慮した取り組み

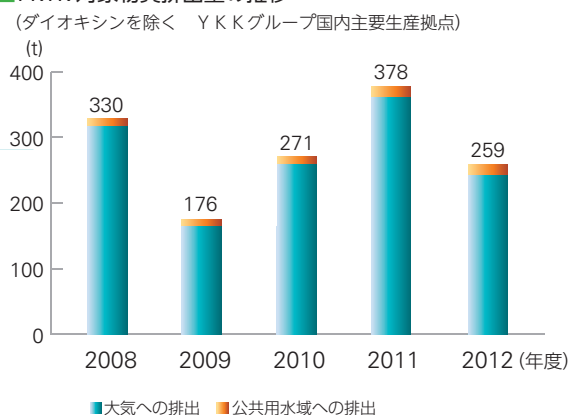
#### 化学物質管理・資源循環

##### 化学物質リスクの削減

YKKグループでは、化学物質の適切な管理・把握による製造と商品の安全性の維持と、使用量の削減による環境負荷の最小化に努めています。特にPRTR法の対象となる462物質に関しては、2008年の法改正によって新たに対象となった物質を含めて使用と排出の実績を把握しています。

2012年度のPRTR対象物質排出量は、法改正による新規物質を含めると259tでした。今後も引き続き、使用化学物質のリスク評価や適正管理を推進するとともに、使用と排出の削減に取り組んでまいります。

##### PRTR対象物質排出量の推移



##### エコテックス(OEKO-TEX®) (\*)

ファスニング事業では、YKK本社と欧州各社、欧州向け輸出の多いアジア各社において、「エコテックス・スタンダード100」の中でも最高水準の「クラスI」(乳幼児向け製品規格)の認証を取得しています。

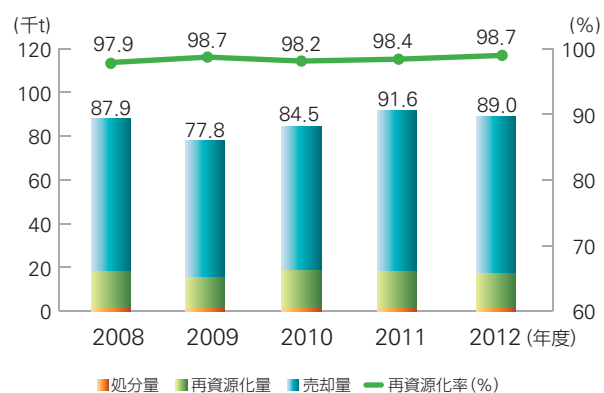
中でもYKKドイツ社は、品質へのこだわりと一貫生産体制に加えて、商品の開発から生産、廃棄、リサイクルに至るまで一貫した環境対策の実施が評価され、エコテックスにより「ベストプラクティス企業」に選定されました。

※OEKO-TEX®: 欧州を中心に世界16カ国の繊維検査団体が構成する規格団体。同団体が認証する規格「エコテックス・スタンダード100」は、有害物質規制の厳しい欧州各国における代表的なエコレベルであり、事実上の世界規格となっている。

##### 廃棄物ゼロ化に向けた取り組み

YKKグループでは、「事業活動に伴って発生する排出物の再資源化率を97%以上にすること」を目標に、廃棄物等の発生抑制、再使用、再生利用の3R活動に取り組んでいます。2012年度の再資源化率は98.7%となり、2005年度から8年連続で目標を達成しました。

##### 廃棄物排出量、再資源化率の推移 (YKKグループ国内全拠点)



##### 廃棄物処理委託業者の現地確認

YKKグループは、廃棄物の適正な管理・処理管理を目的に、毎年計画的に廃棄物処理委託業者の現地確認を行っています。チェックリストを基に、契約書やマニフェストの管理、廃棄物の保管・処理状況、環境・危機管理対策や周辺地域との関係などを確認します。

また現場での会話の中から、より安心で、費用が安い処理ルートを探ることができる有益な情報を得る機会ともなっています。

##### グリーンビジネス認証を取得(テープ・クラフト社)

米国テープ・クラフト社は、所在地アラバマ州カルフーン郡の商工会議所よりグリーンビジネス認証を取得しました。

ISO14001、OHSAS18001、ISO9001の認証を得ていることに加えて、独自の環境研修・教育プログラムを実施していることが、グリーンビジネス認証における高スコアの獲得につながりました。また、社員と管理職による環境検査や改善案を出した社員に報酬を与えるインセンティブプログラムの実施のほか、手続きの電子化(ペーパーレス化)、梱包材の再利用化、電力使用の「見える化」などによる省エネ、カーシェアリングの奨励といった、独自の取り組みも高評価を得ました。



#### 環境債務

##### 適正管理と処理の推進

YKKグループではフロン類、アスベスト、土壌汚染およびPCBを環境債務として取り扱い、適正管理と処理を行っています。

##### フロン対策

フロン類を含有する機器には遵守すべき法律と管理者等を明示するとともに、台帳による管理を行っています。

推定処理費用: 約1.1億円

##### アスベスト対策

アスベストは確認され次第、除去を行っていますが、除去工事が困難なことから8地点においては除去ができない状況となっています。これらの地点では固定化または囲い込みの処置を行うとともに、定期的に大気中の飛散量を確認し、人体への健康被害を生じないよう対策を講じています。

推定処理費用: 約2.8億円

##### PCB対策

YKKグループの高濃度PCB(ポリ塩化ビフェニル)含有機器は2008年より処理を開始し、2012年度末までに543台の処理を行い、全国4拠点にある残り124台(2013年3月末現在)についても、適正に処理を行ってまいります。

微量PCB含有機器については「YKKグループ微量PCB含有機器取扱指針」に基づき、適正な保管・管理を行っています。2012年度は全国の処理場が増えたことを受け、前述の指針に適正処理を含めて改訂し、処理を開始しました。今後も適正な保管・管理を維持しながら、順次処理を実施してまいります。

現在までの処理費用: 約3.2億円

残りの推定処理費用: 約0.9億円

\*高濃度PCB含有機器処理費用のみ



処理した微量PCB含有機器

##### 土壌汚染

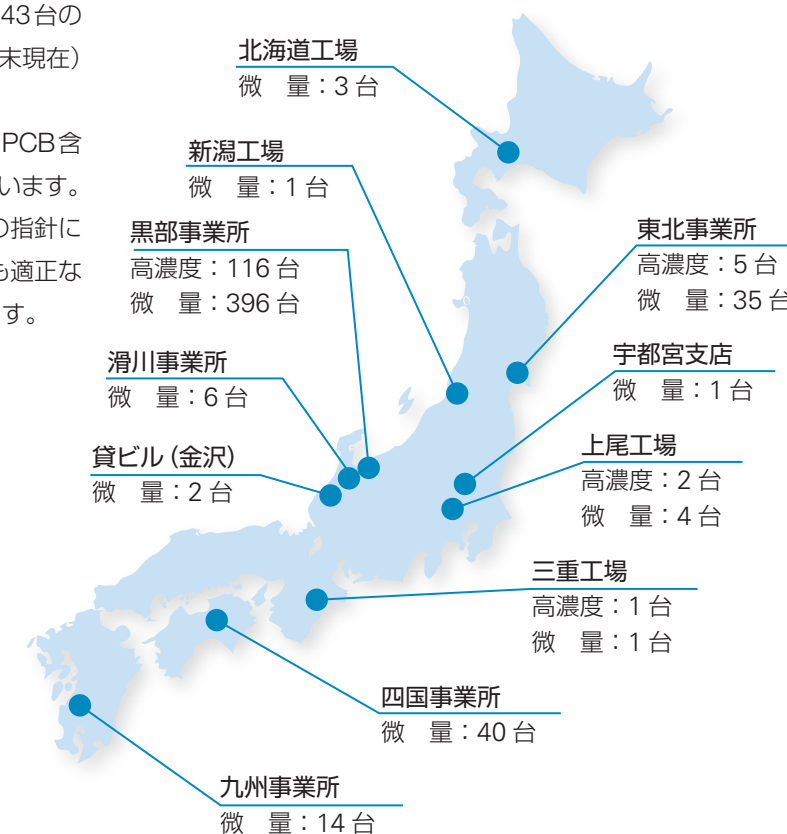
国内所有地全272拠点において自主的に土壌調査を行った結果、環境汚染を引き起こすなど、直ちに問題となる所有地はないことが確認されました。ただ、このうち37拠点は、汚染リスクの可能性があるため、機会を捉えて再確認することとしています。

現時点での調査・処理費用: 約2.6億円

##### 海外環境債務

YKKグループでは海外拠点における環境債務を把握するとともに、健康被害につながる可能性がないことを確認しています。今後も、各拠点において適正な保管・処理を行いつつ、各国の状況を考慮しながら処理を推進していきます。

##### YKKグループ PCB含有機器保有状況 (2013年3月末現在)





# YKK精神・経営理念とYKKグループの経営体制

## YKK精神「善の巡環」

他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫

をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお客様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考えです。このような考え方を吉田忠雄は『善の巡環』と称し、常に事業活動の基本としてまいりました。私達はこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

## 経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



YKKは、更なるCORPORATE VALUE(企業価値)を求めて、7つの分野に新たなQUALITY(質)を追求します。

### コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

YKKグループは、その企業活動の中で、「他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない」という『善の巡環』の精神を基本としています。この精神のもと、経営の使命・方向・主張を表現する経営理念『更なるCORPORATE VALUE(企業価値)を求めて』において、一貫して公正であることをあらゆる経営活動の基盤としています。当社グループは、こうした考えに沿って、より一層の企業価値の向上を図ることを目的としたコーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組んでいます。当社のコーポレート・ガバナンスは、経営方針などの重要事項に関する意思決定機関および監督機関としての取締役会、ならびに、監査機関としての監査役会という機関制度を基本として、執行役員制度により、事業・業務執行を推進する体制を基本的な考え方としています。

### コンプライアンス

YKKグループでは、世界の国/地域において、一貫して「公正」であることを経営活動の基盤としてきました。YKK

グループが真の国際企業となるため、2009年3月に、「YKKグループ行動指針(YKK GROUP CODE OF BUSINESS CONDUCT)」を制定しました。これにより、世界中のYKKグループの全社員が共通の行動指針を持つことになりました。

コンプライアンス体制としては、コンプライアンス担当取締役を任命し、YKKグループのコンプライアンス体制の整備を図っています。コンプライアンス担当取締役は、コンプライアンス体制の整備・遵守の状況等につき、取締役・監査役に報告を行います。また、取締役・執行役員は、弁護士等によるコンプライアンス研修を定期的に受講し、職務遂行において法令を遵守するべき旨の誓約書を会社に提出しています。

コンプライアンス推進活動としては、コンプライアンス担当執行役員のもと、コンプライアンス推進グループを設置し、従業員に対する定期的な研修会の実施による意識改革への取り組み、報告および相談体制の整備、懲戒委員会の設置および運営、モニタリング機能の整備を行っています。また、法令違反、社内規則違反等の発生の抑止と通報者の保護を目的として、YKKグループ内部通報制度を運用しています。



YKKグループの経営体制は、中核となるファスニング事業とAP事業、そして両事業のエンジニアリングを支える工機、3者によるグローバル事業経営と世界6極による地域経営を基本としています。

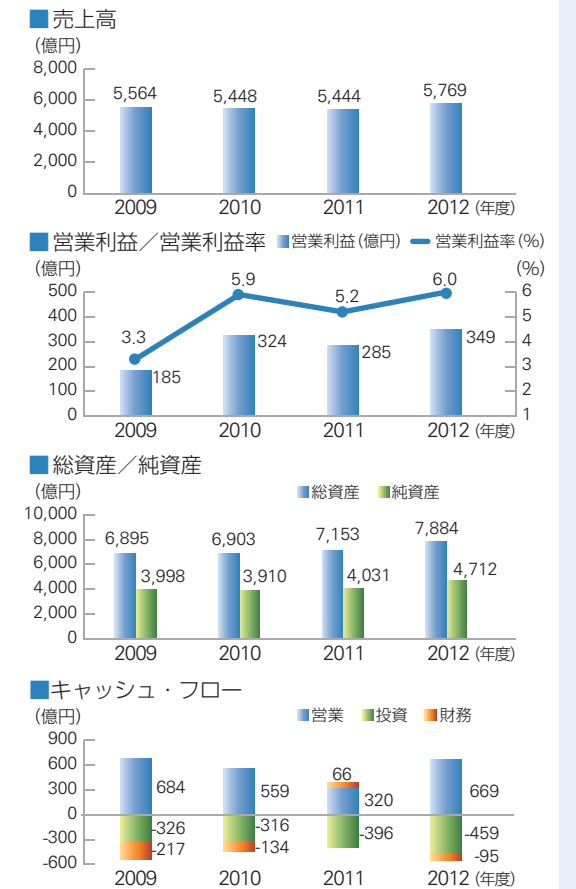
### 【YKK株式会社】

創 業 1934(昭和9)年1月1日  
資 本 金 119億9,240万500円(2013年3月末現在)  
代表取締役会長CEO 吉田 忠裕  
代表取締役社長 猿丸 雅之  
本 社 〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1  
※2011年9月より仮移転(現住所)  
〒101-8642 東京都千代田区外神田1-18-13  
秋葉原ダイビル10F・11F  
TEL 03-3864-2000  
黒部事業所 〒938-8601 富山県黒部市吉田200  
TEL 0765-54-8000

### 【YKKグループ】

事 業 内 容 ファスニング・建材・ファスニング加工機械  
および建材加工機械などの製造・販売  
グループ会社 世界71カ国/地域109社  
日本国内21社 海外88社  
主な子会社 YKK AP(株)、YKKファスニングプロダクツ販  
売(株)、YKK不動産(株)、YKK U.S.A. 社、YKKア  
ルミニウム・オーストラリア社、YKKコーポレ  
ーション・オブ・アメリカ  
連結従業員 39,000名(国内17,000名 海外22,000名)  
(2012年12月末現在)

### 2012年度連結主要財務情報



### セグメント情報(事業別)

